

わくわくマジックランド

読書の時間でマジックの本を見た子が「これやってみよう」と6年生にやって見せていました。見破られてしまっても簡単には諦めないところがその子のいいところです。何度も新しいマジックを周りの子に見せて、成功した時にはとても嬉しそうでした。楽しそうなマジックは周りに広がり、先生にマジックを教えてもらおう子、別のマジックをやって見せる子も出てきました。マジックブームです。そんな中、学校に届いたチラシに「南マジック楽しい会」を見つけた子どもが教師と一緒に電話したところ、マジックショーを学校で見せてもらえることになりました。目の前で見ると不思議なマジックに大興奮



の子どもたち。「私たちもマジックをやってみよう！」と盛り上がり、単元が始まったのです。

すぐに行動する子どもたち、マジシャンになろうとマジックを調べたり考えたりします。準備したり練習したりして、木曜日の昼休みは「マジックタイム」になりました。学校の友達に見せては、成功を喜んでいました。しかし、「見破られて言われてしまった」「今日は人が少なかった」等、問題も出てきました。「去年のマフィンレストランの時みたいに、招待して、説明をきちんとしたらいい」「コーナーを作って回ってもらおう」「協力しないとできないよ」とさらに願いを高めて、「みんながびっくり笑顔になるマジックショーにしよう！」と盛り上がっています。